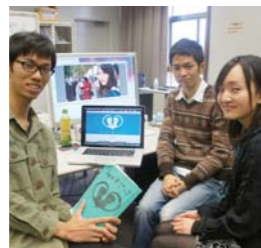


映画「女の子ごっこ」が公開されます

3月11日



芸術工学部の栗原映像研究室の学生メンバーを中心に、「性同一性障害」をテーマとして制作した映画「女の子ごっこ」が、3月11日にミッドランドスクエアシネマで上映されます。映画を企画した栗原准教授は、性を問われることで生きづらさを感じる人びとがいることを知ってほしい、という思いでこの映画を企画したといいます。実際にこの映画は当事者の方にも多くの協力をいただいています。学生メンバーのみなさんは、制作の中で当事者の方とかわることで、性同一性障害の方の「障害」も自分たちの個性と同じだと気づき、いい意味で違いを気にしなくなったと語っていました。みなさんもぜひ、この映画をとおして性にかかわる問題について考えてみませんか。



左から、学生メンバーの窪寺亨介さん、松本直也さん、村上亜希子さん

映画「女の子ごっこ」

上映日時 2014年3月11日(火) 18:30~20:30

上映場所 ミッドランドスクエアシネマ
(名古屋市中村区名駅四丁目7番1号 ミッドランドスクエア5階)詳細は「女の子ごっこ」特設サイトをご覧ください
<http://nagoya-movie.com/eiga/2013/>

春休みわくわくスクール参加者募集!

春休みわくわくスクール

日時:3月28日(金) 桜山キャンパス 集合8時45分/解散17時15分

定員:15名程度

参加費:1人につき1,000円(保険代、交通費込) 昼食代別途負担

募集期間:2月24日(月)~3月14日(金)(定員になり次第締め切り)

教職員および学生のお子さん(3月現在小1~小6)をお預かりして、東山動植物園を訪ねます。午前中は動物会館にて「動物の社会のしくみ」について学び、午後は人文社会学部保育サークル「ぼぼんた」の学生ボランティアさんと園内見学の予定です。

ACTION PLAN

次世代育成支援行動計画(第3期)を策定しました

教職員の子育て、家庭生活と仕事の両立を可能にする労働環境を整備するため、次世代育成支援行動計画(第3期)を策定しました。計画期間は、平成26年1月1日から平成27年3月31日までです。

目標1 ワーク・ライフ・バランス相談室の利用促進を図る。

目標2 男性の育児休業の取得ならびに年次有給休暇の促進を図る。

目標3 学童保育の実施について検討する。

目標4 所定外労働の削減を図る。

目標5 年次有給休暇の取得を容易にするための措置を検討する。

目標6 職場優先の意識や固定的な性別役割分担意識の是正のための情報提供・研修を実施する。

2014年2月1日現在、本学の女性教員比率(専任)は20.8%です。

男女共同参画推進センターを設置します!!

2014年4月より、男女共同参画室と女性研究者支援室を統合し、男女共同参画推進センターがスタートします!これまでと同様、ワーク・ライフ・バランスや女性研究者支援、ポジティブ・アクション、次世代育成支援に取り組むほか、学生に対する取組みや病院との連携など、新たな課題にも取り組んでいきたいと思います。どうぞご期待ください!



NEWSLETTER 男女共同参画の推進に向けて

名古屋市立大学男女共同参画室・女性研究者支援室 Vol.10 ニュースレター

発行 名古屋市立大学男女共同参画室・女性研究者支援室 〒467-8601 名古屋瑞穂区瑞穂町字川澄1
TEL:052-853-8577/FAX:052-853-8588/E-MAIL:sankaku@sec.nagoya-cu.ac.jp
URL:http://www.nagoya-cu.ac.jp/sankaku/ 2014年2月

SYMPOSIUM

名古屋市立大学男女共同参画総括シンポジウムを開催しました

本学は平成23年に文部科学省科学技術人材育成費補助金 女性研究者研究活動支援事業に採択されました。最終年度にあたる本年度、12月13日には、男女共同参画室・女性研究者支援室が主催し、これまでの活動を総括するシンポジウム「多様性のあるゆたかな社会のさらなる実現に向けて一大学における男女共同参画の将来と展望一」を大学病院3階大ホールで開催しました。シンポジウムには本学教職員・学生、学外者を含む約130人が参加しました。

戸刃学長による開会挨拶の後、第1回名古屋市立大学男女共同参画奨励賞の授賞式が行われました。伊藤静香さん、経済学部白杵ゼミ1期生の皆さん、薬学部男女共同参画セミナー実行委員の皆さんがそれぞれ受賞されました。(※受賞内容はニュースレターvol.9をご覧ください)

その後、京都大学大学院文学研究科の伊藤公雄先生による講演「大学における男女共同参画=ジェンダー平等の動き一京都大学の場合一」、また大阪府立大学大学院人間社会学研究科の田間泰子先生による講演「皆で作ろう!素敵な大学一大阪府立大の実践例一」が行われました。それぞれの先生の豊富なご経験をふまえたお話には、本学の取り組みの参考となる点が多々ありました。

続いて伊藤先生と田間先生のお話をふまえ、名古屋市立大学における男女共同参画・女性研究者支援の取り組みを紹介しました。

来年度以降は男女共同参画推進センターとして男女共同参画と女性研究者支援の取り組みを一本化し、事業を進めていきます。

シンポジウムの最後は、北川室長のコーディネートのもと、パネルディスカッションを行いました。これまで十分に行われてこなかった大学病院との連携や女性研究者支援のさらなる強化について、再確認がなされました。



伊藤公雄先生のご講演概要

伊藤先生は、ジェンダー研究の中でも男性研究を専門とされています。当日は、1970年代前後の京都大学の女性解放運動や保育所運動などに、伊藤先生が男性としてどのように関わってきたかの個人史を含めた興味深い話が展開されました。また京都大学では1970年代以降ジェンダー関連の動きが様々に見られた一方で、大学としての男女共同参画の取り組みがなかなか進まなかったという状況についても説明されました。しかし2006年に採択された科学技術振興調整費の「女性研究者支援モデル」事業を契機に、京都大学では女性研究者を支援する様々な取り組みがはじまり、現在も活発に行われています。詳しくは、京都大学女性研究者支援センター編『京都大学男女共同参画への挑戦』(明石書店)もご参照ください。

田間泰子先生のご講演概要

田間先生ご所属の大阪府立大学は、2005年に府内の3つの大学(旧大阪府立大学、大阪女子大学、大阪府立看護大学)が統合され、理系中心の大学として新たなスタートを切りました。ご講演では、理系の女性研究者が少ない大阪府立大学が2012年に「女性研究者支援モデル」事業に採択され、取組みを行うなかでどのような効果が得られたかについて話が展開されました。なかでも、プラスワン制度(インセンティブ付与)などのポジティブアクションの実施により工学研究科の女性教員が2名から8名に増加し、女性教授も1名誕生したこと、生命環境科学研究科での女性限定公募やつばさ保育園、理系女子大学院生チームIRISといった象徴的な取組み、地道な学内広報活動によって学内の意識改革が進んだという話が印象的でした。また公立大学として地域連携も行われています。

男女共同参画セミナー

11月26日 システム自然科学研究科

理系女性研究者のキャリアパス



富岡利恵先生(名古屋大学大学院生命農学研究科助教)と森典華先生(名古屋大学社会貢献人材育成本部ビジネス人材育成センター特任教授)を招き、理系女性研究者のキャリアパスについて考えるセミナーを開催しました。当日はシステム自然科学研究科の教員を中心に31名が参加しました。

富岡先生は、これまでのキャリアの話を絡めながら、ご自身の研究分野である環境や樹木生理学の魅力や研究成果についていきいきとお話くださいました。続く森先生は研究者から若手研究者を支援する側へと転身した異色のキャリアの持ち主。現代の女性博士を取り巻く環境や博士課程修了者の多様なキャリアパスの事例、指導教員の役割などをお話くださいました。

参加した教員からは、博士取得後のキャリアパスについて知ることができた、博士課程の学生を指導する上で役立つ情報が得られた、という感想が寄せられました。

12月4日 経済学部・看護学部

子どもの目線からみた“親が働いている”ということ



経済学部・看護学部共同のセミナーでは、子どもの目線を加えてワーク・ライフ・バランスを考えようと、京都市上京区・寺之内幼稚園前園長の末吉央伯氏による講演会を開催しました。

幼稚園の子どもに比べ、保育園の子どもが親とかかわる時間は少ないでしょうか？実際には幼稚園の子どもは降園後におけいこごとを詰め込まれ、とても忙しく過ごしています。保育園に子どもを通わせる共働き家庭でも、子どもと濃密なかかわりをもつことができれば問題ないと末吉氏は言います。そのときに大切なのは子どもに話をさせること。忙しい毎日、親がしゃべりっぱなしにならず、話せることは話させるきっかけづくりと待つ気持ちが大切です。末吉氏の笑顔と軽妙な語り口、そして最後に述べられた「親が働いていることは素敵なこと」というメッセージには、参加者の多くが勇気づけられました。

11月26日 芸術工学部

いい仕事しよう！いい人生しよう！
ワークライフバランスを実現して輝くライフステージ

NPO法人ファザーリングジャパン理事としても活躍されている社会保険労務士の横井寿史氏を招き、ワーク・ライフ・バランスについて考えるセミナーを開催しました。

結婚前は「男は外で働いてお金を稼ぐべき」との価値観を持っていたという横井氏。「あなたが一人で稼がなければいけないことはないよ」というパートナーの言葉で大きく価値観が変わったといい、現在では家事も子育ても夫婦で分担されています。そんな横井氏の考えるワーク・ライフ・バランスは「寄せ鍋」。大きな鍋という人生の中には仕事や趣味などたくさんの具材が入っており、その具材のバランスの良さこそワーク・ライフ・バランス、という考え方や、鍋を大勢の人が囲んで食べるように、他人が仕事やライフイベントなどの具材を入れることもあるため、常にバランスを見張っていかなければならない、というお話は、とても示唆に富み、また印象深いものでした。

1月24日 人文社会学部

一緒に考えよう！研究と介護の両立



研究者が仕事と介護をどうやって両立させるのか、両立にあたってどのような問題を抱えているのかという関心から、人文社会学部のセミナーでは「研究と介護の両立」をテーマとするセミナーを開催し、17名が参加しました。

報告者のうち、安藤究先生(人間文化研究科・准教授)と池田由紀先生(看護学部・准教授)にはご自身の経験談を、安藤ゆたか氏(瑞穂区東部いきいき支援センター・主任介護支援専門員)には介護保険や介護サービスの利用方法等についてお話しくださいました。報告では、普段の介護の状況、介護が必要になってから介護認定が下りるまでに利用できるサービスの少なさ、長距離介護の困難、相談できる人の必要性、などいずれも重要な問題が指摘されました。親族の介護は誰もがいずれ直面する問題です。今後は職場としてどのようなサポートができるか、議論を深めていく必要があります。

リラックスヨガ教室好評です！

お昼休みを利用して身体によいことをしませんか？昨年末にスタートした、リラックスヨガ教室。マットを広げ座り、自分の呼吸に意識を向けるひととき、ヨガのポーズをすることで背筋が伸びていく実感、そしてリフレッシュして職場に戻るときの笑顔一。参加者からは、「気分転換になる」、「姿勢がよくなったと言われる」などの感想が寄せられています。

心身ともにすっきり元気になれる『笑いヨガ』教室にもご参加ください！

日時：2/27(木)、3/3(月)、10(月)、18(火)、20(木) 12:10~12:50

場所：西棟看護学部演習室で開催しています。

12月20日 桜山 1月22日 滝子

女性研究者ランチミーティング



冬の寒さが厳しいなか、12月(桜山)は7名、1月(滝子)は8名が参加してランチミーティングを行いました。12月は寒さに負けない心身の健康の話、お正月休みが明けた1月は両親とのつきあい方などの話で盛り上がりながら、交流を深めました。

大学病院看護部で「男性看護師会」が結成されました

近年、男性看護師を多く目にするようになってきましたが、名古屋市立大学病院で働く看護師約800人のうち男性看護師の数は約40人程度で全体の5%と、全国平均6%より少ない状況です。病院看護部では、救命救急センターで看護師長をしている平原広登さんを中心に、大学病院内の男性看護師がネットワークを作ることで、男性看護師の長所を生かしつつ、ワーク・ライフ・バランスを考慮した働きやすい職場環境を作ろうと試みています。また、看護職のやりがいや楽しさを、看護師を目指す男性後輩にも伝えていきたいと考えています。

男性看護師会の平原広登さん(救命救急センター)より

男性看護師会を12月10日に結成しました。14部署に配属されているため、顔は知っていても、初めて会話しただという人もいました。まだ結成されたばかりですが、主任3名と力を合わせ、男性看護師が職場で抱える悩みを解消したり、今後の目標を見つけられたりできる会にしたいと思っています。そして、この会を通じて交流を深め、ワーク・ライフ・バランスのことも考えていながら、いずれは「看護の本質を追求する場」としてお互いが切磋琢磨できるように取り組んでいきたいです。



餅つき大会

さくらんぼ保育所だより

冬の行事を楽しんでいます

さくらんぼ保育所では季節ごとの行事を行なっています。中でも冬は、クリスマス会・餅つき大会・餅つき大会と盛りだくさん♪クリスマス会では戸苅学長が演じられたサンタさんのお喋りやプレゼントを、餅つき大会では子ども・保護者・職員が一緒になってお餅をつくこと食べることやお喋りを、そして餅つき大会では鬼に豆を投げることや海苔巻きを食べることを、それぞれ楽しみました♪



クリスマス会

12月5日

子育てサロン「英語で子育てを語ろう」を開催

誰かと接しているときの自分の感情を意識したことはありますか？自分の中にある不満感情をそのまま関係のない相手にぶつけてしまい、後悔した経験はありませんか？この子育てサロンでは、アメリカのペアレンティング講座で活用されている教材を使って、自分の気持ちの状態を意識し言語化する練習をしました。ふと気がつくと、子育て中に限らず、日常の人間関係でも役に立つスキルだと気づくことに。日本語も英語も交えての、楽しいひとときでした。

男性教職員のためのワーク・ライフ・バランス交流会を開催しました

ワーク・ライフ・バランスについて、男性教職員で話ができる機会を作りました。第1回目は昨年12月に開催し、8名の方が参加されました。効率の良い会議運営や、仕事へのやりがいを高めるための方法など、様々な話をしました。2ヶ月に1回ほどのペースで、テーマを決めて開催します。ぜひご参加ください。